

質問書に対する回答 9

件名) 首都圏中央連絡自動車道 横芝光舗装工事

番号	質問箇所	質問事項	回答
1	特記仕様書P28 26-3-1 客土掘削	客土掘削 土砂Aの歩掛りについて、のり面工-土羽土及び分離帯の客土でお考えでしょうか。 それとも、土工-盛土工-小規模・ショベル・ダンプ施工-1層仕上り厚30cm-一般盛土でお考えでしょうか。 また、施工箇所によらず、全数量とも同じ歩掛りでお考えでしょうか。	のり面工-土羽土及び分離帯の客土を想定しております。 また、施工箇所ごとの算出を想定しております。
2	用排水構造物工	詳細図1/89～18/89の材料表において、埋戻し数量の記載があるものと無いものがあります。 ①詳細図の材料表に埋戻し数量の記載が無いものについては、当初積算としては、埋戻しが計上されていないと考えてよろしいでしょうか。 ②それとも、質問回答5-2より図面に記載が無くても標準設計図集または単位数量計算書に埋戻し数量の記載があれば、計上されていると考えてよろしいでしょうか。 ③残土は保護路肩または中央分離帯の埋戻し土として使用するとの回答ですが、構造物掘削した残土は多古ストックヤードへの積込・運搬費用は計上されていないと考えてよろしいでしょうか。 ④残土の保護路肩または中央分離帯の埋戻しの箇所までの積込・運搬費用は計上されていますでしょうか	①埋戻はすべて計上を想定しております。 ②①のとおり想定しております ③そのとおり想定しております。 ④計上は想定しておりません
3	二次製品	用排水構造物のコンクリート二次製品について、①市場単価、②ネクスコ東日本土木工事等単価ファイル令和6年4月、③見積のどれを採用されていますでしょうか。 見積採用の場合は、3社見積もりの平均を採用されていますでしょうか。	見積の採用を想定しております。
4	鋼材製品	構造物における鉄筋、セメントコンクリート舗装における鉄筋、目地工におけるチェアー・タイバー・ダウエルバーなどの鋼材製品について、①市場単価、②ネクスコ東日本土木工事等単価ファイル令和6年4月、③見積のどれを採用されていますでしょうか。 見積採用の場合は、3社見積もりの平均を採用されていますでしょうか。	鉄筋・タイバー・及びダウエルバーについては市場単価の採用を想定しております。 チェアーについては見積の採用を想定しております。

5	交通安全施設・交通管理施設・その他製品	防護柵、立入防止柵、立入防止柵の出入口、眩光防止板、落下物防止柵、視線誘導標、距離標、車線分離標、工場製コンクリート縁石、立入禁止板、カルバート番号板、のり面防火対策、名称板、逆走防止対策、標識サポートに使用する製品について、①市場単価、②ネクスコ東日本土木工事等単価ファイル令和6年4月、③見積のどれを採用されていますでしょうか。 見積採用の場合は、3社見積もりの平均を採用されていますでしょうか。	土木工事等単価ファイル令和6年10月および見積の採用を想定しております。
6	生コンクリート	当工事で使用する生コンクリートの各種類の水セメント比をご教示願います。	コンクリート施工管理要領3-8配合によるものと考えております。
7	粒状路盤工	特記仕様書P22 20-1- (1) に記載がある、粒状路盤工で使用する製鋼スラグについて、クラッシュラン鉄鋼スラグCS-40高炉でしょうか、それとも粒度調整鉄鋼スラグMS-25高炉でしょうか。	CS-40及びHMS-25を想定しております。
8	質問回答4-8	Ev埋戻し費について、埋戻しに使用する材料は下層路盤材との回答ですが、製鋼スラグを使用すると考えてよろしいでしょうか。 その場合の、材料のロス率は下層路盤工と同じ1.27でお考えでしょうか。 異なる場合、材料のロス率をご教示願います。	製鋼スラグを想定しております。 ロス率は考慮しておりません。
9	設計書（金抜き） 番号12～13	用排水溝PRG・φ0.50・0.10、PRG・φ0.70・0.15について、施工歩掛りはU型側溝では無いため用排水溝布設の標準以外単価と考えてよろしいでしょうか。 その際の敷モルタルは、数量計算書の数量を別途計上していますでしょうか。	そのとおりお考えください。 また、敷モルタルは数量計算書の数量を想定しております。
10	設計書（金抜き） 番号17	用排水溝St・φ0.30について、特記仕様書P29の該当する摘要欄には「円形水路スリップフォーム」と記載があるので、スリップフォーム工法として計上されているのでしょうか。 標準図集No.129には均しコンクリートが記載されていますが、計上されているかどうか、およびSf・φ0.30 (A)およびSf・φ0.30 (C)との違いをご教示願います。 それとも、土木工事積算基準R6に無いため、見積もり採用でしょうか。	St・φ0.30はスリップフォーム工法を想定しております。 均しコンクリートも計上が必要です。 Sf・φ0.30 (A)およびSf・φ0.30 (C)との違いは縁石設置がアスファルト縁石と工場製コンクリート縁石の違いによるものです。
11	設計書（金抜き） 番号28	用排水溝Dv-Bf・φ0.250・0.175(5)について、詳細図面に記載が無いため、当初積算としては用排水構造物標準設計図集のNo.131-1を準用して構造物掘削・埋戻し・残土処分・Bf (JIS A5372)・蓋・コンクリート t=50 (C1-1) ・型枠を計上されていると考えてよろしいでしょうか。 また、Bfの蓋・両脇のコンクリート・型枠については、Bfの延長5.2m分全てにおいて計上されていますでしょうか。	そのとおりお考えください。